

筑波宇宙センターのH-IIのFから見



液体酸素はタンクからニニのL-E-エンジン
にL-E-エンジンへと入る。

こちらは水素のターボポンプ
にあるのはターボポンプから
の通路。Fの方からポンプ
本体である。(ちなみにターボポンプは
モーターで回す)

背後にあるのが液体水素の
タンク。うしろをくぐるように
左のポンプと
つながる。

注:
青いラインは
酸素の流れ
赤いのは水素の
黄のとニニは
両者が交差する
ところ。
紫色のラインは
フールバーター
あつたのは水素の

酸素のターボポンプ

入ってきた
フールバーター
カセット

ニニが加圧、
加圧したあと
の酸素の出口

入ってくる
酸素

ポンプ本体はここ

残念だがよく見え
ない。
前の配管が太く?

ニニがL-E-エンジンの
主燃焼器(MCC)。12MPa
(おおよそ120気圧)、温度は3300K!
力の源はニニ。どんな材料も
耐えられない。まじりに冷却
が必要がある。8号機では
ニニに穴が開いておいた。

12リットルは細かい
配管を組まなければならない。
この配管には液体
水素が流れる。12リットルは
12リットル。
展示のD.T.の下から見ると、細い
チューブがみえる。

水素と酸素が反応したから
のち、8号機はH₂O、2号機
は水素。火はほとんど
薄く流れるように見えた。
LNGはほとんど青い。

フールバーターは3つ
接続する。3つは古い中核
FのD.T.の世界では一般的
なD.T.の一般的な
補修のために入った
と聞かされた。

一段目用のD.T.は
エンジンが止まるとして15分
程度は動く。だから地上では
7リットル以内に液体水素が
発生する。



